

有機農業アカデミー教育計画

授業内容（シラバス）

科目総括表

区分	有機農業専攻
(農産園芸課程との) 共通科目	野菜栽培各論Ⅰ、野菜栽培各論Ⅱ、農業経営、農業簿記、 農薬概論、農業機械Ⅰ 病虫害Ⅰ（病害）、病虫害Ⅱ（虫害）、環境創造型農業、 鳥獣害対策
専攻科目	有機農業概論、土壌肥料、植物生理、 生産工程管理、流通・販売・マーケティング、 先進事例講義、地域農業現地学習、農業基礎・実技演習
実習	専攻実習 先進農家派遣実習

参考

- 1 講義・実習の内容は変更される場合がある。
- 2 講義は15時間をもって1単位とし、演習は30時間をもって1単位とする。
実習は45時間をもって1単位とする。
この場合の1時間は単位時間であり、45分を1時間として計算する。
- 3 授業時間

1時限	9:00～10:30	2時限	10:40～12:10
3時限	13:10～14:40	4時限	14:50～16:20

 とし、1時限をもって単位時間を2時間とする。

講義内容（有機農業専攻）

区分	科目名	単位数 (時間)	ねらい	内容	成績評価の方法 教科書
共通科目	野菜栽培各論Ⅰ	2 (30)	県内野菜産地の概要、イチゴを中心として施設野菜の基礎的技術を学ぶ。	県内野菜産地の概要。野菜産地の歴史・生産状況・特徴。イチゴの生理生態と栽培技術	野菜栽培の基礎（農山漁村文化協会）
	野菜栽培各論Ⅱ	2 (30)	野菜の生理生態・作型・品種 ICT 技術を含む栽培技術を学ぶ	キャベツを中心とした秋冬野菜の生理生態・作型・品種・栽培技術。施設栽培における複合環境制御技術の基本と必要性。特にトマトやイチゴの炭酸ガス施用効果等について	野菜栽培の基礎（農山漁村文化協会）
	農業経営	1 (15)	農業経営の基礎理論と日本農業の現状について理解を深める。	農業の動向と農業経営。農業経営の組織と運営。農業経営の会計。農業経営の診断と設計。農業経営と情報	農業経営概論（実教出版）
	農業簿記	1 (15)	事例を元に経営開始から決算書作成までの理解を深める。	各種帳簿を用いた複式農業簿記。コンピュータを用いた複式農業簿記の実践	農業簿記検定教科書3級・問題集3級（大原出版）
	農薬概論	1 (15)	農薬の基礎知識・詳細について学ぶ。	農薬とは。農薬の種類。農薬の作用機作。農薬の安全性。登録制度。農薬の残留基準。環境への影響	農薬のきほん（誠文堂新光社）
	農業機械Ⅰ	1 (15)	農業機械の基礎と構造についての知識の習得	農業と農業機械。トラクタの構造と操作。原動機の構造と整備。耕耘整地用機械の構造と利用	農業機械の構造と利用（農山漁村文化協会）
	病害虫Ⅰ（病害）	1 (15)	病害の発生病害消長や生態、防除法を学ぶほか実習等を通じて病原菌について学ぶ。	病害発生の仕組みと防除。抵抗性品種の利用。作物と害虫の組み合わせ。総合有害生物管理の考え方	図解でよく分かる病害虫のきほん（誠文堂新光社）
	病害虫Ⅱ（虫害）	1 (15)	害虫の発生病害消長や生態、防除法を学ぶ	昆虫の基礎知識。害虫発生の仕組みと被害。害虫の防除法。総合的有害生物管理の考え方	プリント
	環境創造型農業	1 (15)	環境を守り、食の安全を支える環境に優しい農業について習得する。	環境創造型農業の内容と目的。県の推進施策。有機 JAS 及びひょうご安心ブランド等の取組事例。推進場の課題と今後の推進方策。有機農業と観光農業	プリント

区分	科目名	単位数 (時間)	ねらい	内容	成績評価の方法 教科書
共通科目	鳥獣害対策	1 (15)	鳥獣害の現状、被害の特徴、対策を学ぶ	県下の鳥獣害の現状。シカ、イノシシ、サル、クマ、アライグマ、ヌートリアハクビシン他の被害対策	プリント
専攻オリジナル科目	有機農業概論	4 (60)	有機農業の歴史や種類等を客観的知識として学び、有機農業への理解を深める。	有機農業の特長。土づくりの技術（根圏微生物のはたらき、発酵有機物を使いこなす、緑肥作物等）。作物管理の技術（種子に関わる技術、育苗技術、除草対策、周年栽培化等）。病害虫回避の技術。有機農業と連動させる資源循環、省エネルギー。不耕起栽培の可能性	解説 日本の有機農法（筑波書房）
	土壌肥料	2 (30)	有機農業の基本技術である土づくりや肥培管理等の知識を学ぶ。	土と肥料の基礎知識。植物の必須元素と栄養特性。施肥の原理と肥料の種類・特性。土壌診断と土づくり。環境に優しい施肥技術	プリント
	植物生理	2 (30)	植物生理の知識を深める。	植物生理学とは。光合成と代謝。発生と形態形成。環境。成長と植物ホルモン。栄養	動画、プリント
	生産工程管理	1 (15)	生産工程管理の考え方、実施手法を通じ、農産物の安全管理、生産の効率化の重要性を学ぶ。	1. GAP GAP とは何か。農場にGAPを導入。審査・認証の仕組み。GAPと農産物販売。導入の利点 2. 有機 JAS 認証の仕組み。審査のポイント。導入の利点	プリント
	流通・販売・マーケティング	2 (30)	生産物のストーリー等によるブランド化、販路開拓、商談のポイント等利益を生む生産物の販売方法等を学ぶ。	有機農産物の流通の特徴。小売り事業者が求めるもの。消費者が求めるもの	プリント
	先進事例講義	1 (15)	県内外の優れた有機農業経営の事例を、講義を通じて学ぶ。	優れた有機農業経営の実例として、栽培管理手法、販売戦略、経営管理等を具体的に農業者本人から講義	プリント
	地域農業現地学習	2 (30)	県内外の有機農業経営の実態を、現地視察等を通じて学ぶ。	有機農業者の農園を視察訪問、各地域の状況や訪問先農家の栽培管理状況等を見学	プリント

	農業基礎・実技 演習	1 (30)	小農具の取扱や手入れ、ロープワーク等農業に必要な技術を演習を通じて学ぶ。	農具工具、資材等の名称と使用方法の習得。 ロープワーク。農機具のメンテナンス（刃物の研ぎ方、機械類の簡単な修理） 刈払い機の安全使用、機械始業点検、幸運技能の習得	プリント
--	---------------	-----------	--------------------------------------	---	------

実習

科目名	単位数 (時間)	ねらい	内容
専攻実習	19 (855)	実習ほ場を利用し、個人ごとに土づくりの方法や周年で野菜栽培を行うことにより、短期に栽培技術と経営感覚を養う。	実習ほ場（露地、ビニールハウス）で共通品目及び選択品目を野菜栽培
先進農家派遣実習	4 (180)	県内有機農業実践者の下に出向き、有機農業技術や地域への溶け込みなどを先輩農業者から直接学ぶ。	就農希望地域や農法、栽培品目を踏まえた有機農業実践者に出向いた実習

市場調査・販売体験等の実習計画

月	内容	場所（行き先）	対象	備考
年間	農大直売所「夢花菜」	農大	全員	
10 月	県民農林漁業祭	明石市	全員	明石公園
11 月	農大収穫祭	農大	全員	

※上記は変更することがある。

有機農業専攻実習計画

1 ねらい

野菜類のビニールハウス及び露地での播種から栽培管理、収穫・出荷調製までの基本的な有機栽培の知識と技術を習得する。

2 主な実習内容

(1) 施設野菜

- ・葉物野菜の出荷計画に基づく栽培管理
- ・果菜類の栽培管理
- ・たい肥や緑肥、微生物等による土づくり
- ・太陽熱や蒸気消毒機による土壌消毒、病虫害対策

(2) 露地野菜

- ・果菜類、根菜類、葉菜類の栽培管理
- ・たい肥や緑肥による土づくり
- ・太陽熱による土壌消毒、病虫害対策

(3) その他

- ・基本的な農業機械、小農具の取扱
- ・ぼかしたい肥作りや基本的な有機農業特有の技術実習
- ・各自の希望に応じた有機農業実践者のもとでの実習
- ・直売所（夢果菜）、量販店等への出荷・販売実習

3 作付計画

別紙のとおり

有機農業年間実習内容

ほ場		施設（ビニールハウス）		露地ほ場			
月	旬	共通品目・緑肥		選択品目	共通品目・緑肥		選択品目
4月	上		コーン播種		なす定植	コーン播種	
	中	葉物野菜播種			ピーマン定植		
	下						
5月	上						
	中						
	下	収穫					
6月	上	収穫			タマネギ収穫		
	中	収穫			ジャガイモ収穫		
	下	クロタリア播種			クロタリア播種	収穫	
7月	上		すき込み			収穫	すき込み
	中		太陽熱養生			収穫	
	下					収穫	太陽熱養生
8月	上	すき込み			すき込み		
	中	太陽熱養生			太陽熱養生		
	下		キュウリ・ミニトマト定植				
9月	上					ニンジン播種	
	中				ダイコン播種	タマネギ播種	
	下						
10月	上						
	中		収穫		レタス播種		
	下		収穫				
11月	上	ホウレンソウ播種	収穫		レタス定植		
	中		収穫			定植	
	下		収穫				
12月	上		収穫				収穫
	中		葉物野菜				収穫
	下						収穫
1月	上						収穫
	中				収穫		収穫
	下				収穫		収穫
2月	上	収穫			収穫		収穫
	中	収穫	収穫		収穫		ジャガイモ定植
	下	収穫	収穫		収穫		
3月	上						
	中						
	下						

各自計画

各自計画